

# 特集

〈事例〉

## 子育てサロン開設から16年目 会員が若い世代の育児を応援

公益社団法人  
富谷市シルバー人材センター

(宮城県)

富谷市SCでは、平成20年度から子育て支援事業として子育てサロン「ほっと育<sup>す</sup>く」を運営している。利用は生後6か月以上の未就学児とその保護者が対象で、子育てサロンの中で見守りと、子どもの一時預かりを行っている。最新の子育てについて学んだ会員たちが、子育てに奮闘する若い世代を応援することで地域貢献の一助となっており、世代間交流の場としても機能している。

富谷市は、奥州街道の宿場町の面影を残す一方で、県都・仙台市に隣接する住宅都市として宅地化が進み、人口が増加。若い世代も多く、市は子育て支援に力を入れている。

令和3年12月には、公益財団法人日本ユニセフ協会の定める基準を満たした全国の5つの自治体の一つとして、「日本型子どもにやさしいまちづくり事業（CFCI）実践自治体」として、国内で初めて承認された。

### 子どもの成長や育児を地域で見守るサロン

多様な子育て支援がある中で、富谷市SCの「ほっと育<sup>す</sup>く」は、

現在では市内に数か所にある子育てサロンの先駆けとして、平成20年4月にオープンし、令和5年で16年目を迎えた。

オープン以来、多くの子どもたちの成長を見守っており、育児をする市民を支えて、会員がやりがいを感じられる場所として地域に根付いている。

サロンを利用していた子どもたちが、その後も顔を見せに来てくれたり、入学・卒業の節目に報告に訪れてくれることもある。また、「お世話になったお返しをしたい」とサロン運営に力を貸してくれる市民がいるなど、人と人のつながりや信頼の輪がいくつも生まれ、広がっている。

### 子育てサロン「ほっと育<sup>す</sup>く」とは

子育てサロン「ほっと育<sup>す</sup>く」は、「屋根のある公園」富谷にある実家のような場所をコンセプトに始めた事業である。

当初は企画提案方式事業として、富谷町（当時）と相談しながら内容を検討していった。同事業の終了後は、子育て世代から好評なこともあり、独自事業として継続している。

サロンのコンセプトは当初から変わっておらず、事業目的として、①異なる世代間および親同士の交流の場を構築すること②子育て世代の育児に対する負担を軽減する



富谷市SCの子育てサロン「ほっと育く」は、平成20年4月にオープン。現在は、リニューアルした旧学校給食センターの1階を借りて運営している



取材時の「ほっと育く」にて。写真前列左から、畑本弘子さん、小野文字さん（子育て支援を含まむ福祉班班長）、三浦浩子さん。後列左から青山優子さん、渡邊典子さん、平林真喜子さん、日諸臺代子副参事

こと③市の施策と連携し地域づくりの拠点として役に立つことの3点を掲げている。  
ほっと育くの名称は、「ほっとする」と「育つ」の意味を込めて命名した。  
サロンは、施設の老朽化に伴い、平成27年4月にリニューアルした旧学校給食センターの1階に移転した。

サロン内には、遊び場と飲食コーナー（飲食物は利用者が持参）、昼寝用スペースがあり、会員が手作りしたおもちゃや絵本などが置かれていて、1日を通して交流スペースとして利用でき、他の利用者の親子やスタッフ（会員）と交流したり、遊んだりして過ごすことができる。スタッフによる育児相談会や、利用者同士のおさがり交換会、リトミック教室、季節の行事（おひなまつり、こいのぼり

- 製作会、七夕会、クリスマスリース製作会）なども行っている。
- 対象年齢／6か月〜未就学の子どもとその保護者
- 利用料／月当たり100円（入会金なし）
- 開所時間／9〜16時（祝日を除く月〜金曜日）
- スタッフは、1日を通して担当する会員1人と、午前・午後のみ担当する会員1人の常時2人体制。就業ではなく、見守り役として謝金を支払われている。
- 見守りは、安全確保の観点から、スタッフ全員の話し合いによって、担当できるのは80歳までと決めた。令和5年3月16日現在、子育て支援事業に携わっている会員は25人で、うちサロンには17人が関わっている。

**一時預かりにも対応**

ほっと育くでは、サロンだけではなく、一時預かりも行っている。こちらは事前にマッチングを必ず

- 行い、利用の前日までの予約制で、サロンのスタッフとは別に、預かる子ども1人に対して、1人の会員が就業として担当する。
- 対象年齢／生後2か月〜小学3年生程度
- 料金／1時間784円で、1時間以降は30分ごとに392円
- 持ち物／着替え・おむつ、おやつなど。昼食にかかる場合は弁当・お手拭きを持参

このほか、市の子育て支援関係の行事やイベント開催時の託児、産前産後の家事支援などを受注している。

**毎年全ての就業会員が最新の子育てについて学ぶ**

子育て支援の就業を希望する会員だけでなく、すでに就業している会員も、センターが年1回開催する「子育てサポータースキルアップ講習会」の受講を必須としている。幼児教育などの専門家を講師に招いて、丸1日かけて最近の

子育て事情や親たちとの関わり方、子どもへの注意の仕方、センターの子育て支援の在り方などを学んでいる。そのほか、毎月スタッフの情報交換会を開き、情報共有と問題解決、気になることなどを話し合う場を設けている。

また、サロンでは毎年実施する避難訓練も大事にしている。東日本大震災は開所中に発生し、大きな揺れに見舞われたが、幸い子どもたちも含め全員が無事に避難できた。その教訓を生かし、会員は責任感を持って訓練に臨んでいる。

## 子育て支援事業の実績

コロナ禍以前は、会員による手作りおやつを振る舞うこともあった（現在は中止）。3年間のコロナ禍においても、緊急事態宣言発出中以外は感染防止対策を徹底し、人数制限の上でサロンを開いて、来所する親子を迎えてきた。

過去4年の活動実績は、以下の通りである。

### ●ほっと育くの利用者数

令和元年度 11954人

令和2年度 12009人

令和3年度 15009人

令和4年度 1710人

### ●子育て支援事業全体の事業実績

（就業実人員／契約金額）

令和元年度（27人／約105万円）

令和2年度（22人／約46万円）

令和3年度（20人／約53万円）

令和4年度（22人／約55万円）

### いつでも行けて安心して親子が過ごせる場所

取材時は、午前中にリトミック教室が行われていた。講師の若井普子<sup>ひろこ</sup>さんは、以前のサロン利用者で、お世話になったお返しがしたいと、毎月1回、ボランティアに

近いかたちでこの教室を担当している。「実家は関西なので遠く、夫の仕事が最も忙しい時期に2人目を授かりました。サロンには、毎日のように来て遊ばせてもらいましたし、つわりがつかった時期

は、上の子の世話や家事サポートもお願いで、皆さんに助けてもらいました」と若井さん。

当時の若井さん親子を知る会員は、お子さんの成長の様子が自分の孫のことにようにうれしく、現在、サロンに協力してくれることも大きな喜びだと話してくれた。

サロン利用者には、2人目を出産する人も多く、「ここがあるから安心して2人目を産むことができます」との声が聞かれるという。

ほっと育くは、その名の通り、育児に奮闘する親たちがほっとできる場所になっている。それは取材時に聞いた母親たちの次のような声からも伝わってきた。

「他県から引越してきたばかりで近所に知り合いがなく、実家も遠いという状況で、このサロンを知り、週3、4回来るようになりました。本当に実家のように安心して過ごせる場所です」「ばあばの皆さんが見てくださる安心感があります」「子どもが楽しみにして

リトミック教室を開催中の「ほっと育く」。キーボードを演奏する講師の若井普子<sup>ひろこ</sup>さん（写真左）は、「ほっと育く」の元利用者。今はサロンの運営に力を貸してくれている。



いるだけでなく、ばあばとお話しできることを私も楽しみにして来ている。「安全で、安心して来られるありがたい場所です」。

## 会員のやりがい 地域の元気につながる

育児をする親のよりどころとしてサロンが親しまれている理由には、スタッフである会員の優しさがある。乳幼児の見守りに会員がやりがいを感じ、それが居心地の

良い場所をつくっている。

平林真喜子さんは、夫が亡くなってから2年ほど1人で過ごしていたとき、誘われてセンターに入会した。以来10年、子育て支援に携わり、月4回ほど見守りを行うほか、受注に応じて託児や産前産後の家事サポートを行っている。



1日を通し交流スペースとして利用できる「ほっと育く」。サロンでは、育児相談会や、利用者同士のおさがり交換会などのほか、一時預かりもしている (写真上)



写真右は、スタッフが手作りした輪投げで楽しそうに遊ぶ子どもを、にこやかな表情で見守る平林さん

「ここにこして、ここにやって来て、楽しく遊んでいるお子さんたちに元気をもらっています。つかまり立ちができた、もう歩けるのねと、多くのお子さんの成長に触れられることもうれしく、ここで多くのものをいただいています」と話す。

ほかの会員からも、「感謝の言葉をいただけることに、ありがたさを感じています」「自分が役に立っていると思えることがうれしい」「生きがいを感じられる」「充実感が得られる」などの声が聞かれた。サロン立ち上げ時から事業を担当する日諸喜代子副理事は、「お子さんが楽しんでくれることを大切にしつつ、富谷の実家のような場所として、毎日頑張っているお母さんたちの応援ができればとの思いで歩んできました。私たちなりのやり方ではありますが、今後も会員と想いを一つにして、できることを行っていけます。事務局としては、人を大事にしてこれか

らも事業を継続し、会員が生きがいとやりがいを見つけられる場所をつくることに努めていきます」と語った。  
ほっと育くの取り組みは、地域と会員の元気につながっている。  
(増山美智子)

### 事業運営状況 (平成29年度～令和3年度)

年度	会員数			粗入会率 %	就業実人員 (延人員) 人 (人日)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男	女	計						
平成29	344	129	473	3.6	338 (53,982)	71.5	1,684	266,706	45.6/54.4
30	365	135	500	3.7	484 (52,675)	96.8	1,786	265,563	47.4/52.6
令和元	355	122	477	3.5	467 (51,111)	97.9	1,696	262,635	49.0/51.0
2	359	101	460	3.3	434 (48,296)	94.3	1,398	253,865	49.8/50.2
3	340	102	442	3.1	432 (47,887)	97.7	1,419	251,652	50.5/49.5

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値  
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象  
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む